

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

11月号

平成25年(2013). 11. 1



## 皆で達成した新記録

校長 市川幸男

「1組 283回」「2組 218回」子どもたちの互いに喜ぶはじけた笑顔と声が、大きなスタジアムの中にこだまして、いつまでも響いていました。

10月22日と23日の両日、新横浜にある日産スタジアムに市内の6年生が一堂に集い、横浜市立小学校体育大会が開催されました。大会では400Mリレーや100M走、走り幅跳びといった、学校代表による種目もあるのですが、私は毎年、6年生の学級が全員参加する長縄跳びを楽しみにしています。冒頭は、本校の6年生が3分間のチャレンジを終え、これまでの学級の記録を上回り新記録が出せた喜びの姿です。千秀小学校の6年生は3組さんを含めて41名、クラスごとの単位で、夏休み明けから何度も何度も練習に取り組んできました。始めは、なかなか記録が伸びず、時には集会の時間、下学年にも負けるなど、意欲が高まらなかったのですが、それでも、声を掛け合い、練習を繰り返すことで、次第に記録も伸びてきました。練習を重ねるにつれ、「ドンマイ」という皆の声に押され、苦手な子どもも進んで練習に加わるようになり、担任も一生懸命に縄を回し励ましました。一人、また一人と跳び方が上手になっていきました。跳べなかった友達がうまく跳べるようになると、子どもたち皆が、我がことのように喜び、クラスの全員の気持ちが一つになり、上に向けていったことを感じました。その気持ちの高まりは、先日実施した日光修学旅行に長縄を持って行くほどとなりました（実際には、台風のため実施できませんでした）。その結果が、子どもたちのこの上ないといった喜びの姿に結びついたのでと思います。

私が、400Mリレーや100M走といった陸上運動の中で華ともいわれる競技以上に、長縄跳びに着目するのは、そこにクラス全体で心をつなげて取り組んできたという背景が見られるからです。もちろん数多くの学校の中には、本校よりも素晴らしい記録を残した学校もあります。でも、他校との比較の結果ではなく、時にはけんかしたり、いがみ合ったりしたことを全員で乗り越えて、純粋に自分たちが精一杯努力した成果に感動する姿が見られるからでもあります。

さて、千秀小学校の教育では、生涯にわたりたくましく生きるための基盤となる学力と体の育成、そして、人と豊かにかかわるやさしい心の育成を大切にしています。今回の6年生の取り組みは、縄を回して跳ぶという単純な動きですが、それだけに集中して何度も繰り返す中で、何事にも苦手意識をもってすぐにあきらめてしまいがちであった子どもたちに、できるようになるまで頑張る体験を重ねさせ、できた喜びや自信をつけさせてきました。また、協力しながら記録を伸ばす喜びを重ね、仲間と取り組む苦しさとそれを乗り越えた楽しさを感じさせてもきました。今回の6年生の長縄跳びへの挑戦に限らず、千秀に学ぶ全ての子に、日常の学習の中での取り組みも含めて、あきらめずに挑戦する経験をさせていきたいと思っています。そして子どもたちがこれからの人生の中で、困難なことに出会ったときにも繰り返し努力してやり抜くことや、どんな苦しい時でも仲間のせいにはしないで協力して進むことを学び、「自分で挑戦する力」と育ってくれることを願っています。